

まるでテーマパーク！ カハクで遊んできた

宇宙食を食べた。小学生の頃のわたしの思い出だ。社会科見学で上野にある国立科学博物館へ行き、お土産に宇宙食を買って食べてみた。どんな味だったかは覚えていないけど、わくわくしたという思い出だけは残っていた。もう20年近く前の話だ。

それから時は流れ、去年の暮れ。わたしは『宝石商リチャード氏の謎鑑定』という小説を読み、見事にハマってしまった。イギリス貴族出身のリチャード氏という宝石商が、東京で出会った正義くんという大学生をアルバイトとして雇い、顧客から持ち込まれた宝石にまつわる謎を解き明かしていくという小説だ。正義くんが国立科学博物館を訪れるシーンがある。わたし、ここに行ったことがある。でも、全然覚えてない。ということで、聖地巡礼(小説や映画の舞台となった場所に赴くこと)をしたい、小学生の頃に行ったことがある場所に大人になってからもう一度行ってみたいと思い、電車に乗って行ってみたいのだった。

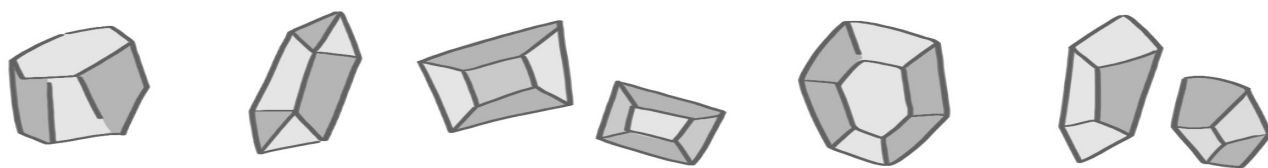


縄文人から現代人まで、それぞれの服装をした人形が展示されている展示ボックス。現代人のボックスだけ空なので、中に入って写真を撮ることができる。はしゃいでいる中学生が楽しそうだった。

「博物館」というワードには、堅苦しいイメージがあった。でも、実際に行ってみたら違った。体験型の展示も多く、子供も大人も遊びながら楽しめるテーマパークのようだったのだ。日本館、地球館と分かれており、まずは宝石の元となる鉱物が展示されている日本館へ。ステンドグラスが美しい館内はほとんどの場所で撮影が許可されていて、SNS用に何枚も写真を撮ってしまった。昔使われていた時計や天体望遠鏡なども素敵だ。鉱物の展示室には色んな種類の石が展示されていて、「石」と一口に言っても、形や色がそれぞれ違うのだなとわかった。

地球館はハイテクな遊び場といった感じで、ボタンを押したりして科学を体験しながら学べるエリアだった。社会科見学で来たであろう小学生や中学生達がパンフレット片手に遊び回っていて、わたしも子供の頃こんな風に遊んでいたのだなと童心に戻ってわくわくすることができた。

宇宙食はお土産コーナーに売っていた。あんまり美味しくなさそうだな。そう思って、買わずに帰ってきた。思い出は綺麗なままで。大人になってから行っても楽しめたという思い出は、新たに上書きされたのだった。



飯田麻奈

イラストレーター・絵本作家。子供向け、女性向けのほんわかとしたかわいらしいイラストを描く。これまでの仕事に、幼児向け冊子、小・中学生向け教材、Web記事の挿絵、絵本制作など。ゲーム・アニメ・漫画オタクで、物語の舞台となった場所へ向く「聖地巡礼」をするのが好き。Twitter@mana_ruufu